

長谷川公茂さん

(円空学会理事長)

長年にわたって円空について研究してみえた長谷川公茂さんに、
美濃加茂市と円空のかかわりなどについてお伺いしました。

— 円空の研究を始めたきっかけは？

わたしは、昔から洋画や版画制作を楽しんでいましたが、いい作品かを判断する物差しが分からなくなっていました。何か標準の物差しを見つけたいと考えていたところ、円空仏を見て、その瞬間、これを研究すれば、本当に美の神髄を把握できるのではと思ったのが出発です。

— 美濃加茂市と円空のかかわりは？

美濃加茂は中山道の宿場町であったこともあり、円空は、美濃加茂を通って尾張や関、飛騨に行っていたようです。美濃加茂に存在する円空仏から見て、寛文年間の後期ぐらいから井ノ上観音堂にあるような元禄年間の物も見つかっていることから、ここを行ったり来たりしていたと思います。美濃加茂市と加茂郡では50数体の円空仏が見つかっており、平均的には多い方ではないでしょうか。加茂地域と特別なかわりがある

たということではありませんが、円空も旅の人ですから、旅人が通るようにこの地域を通ったのだと思います。『年のよのさすか蜂屋の串の柿 蜜と見まから甘口にして』という円空の蜂屋にまつわる和歌が残されています。これは、大みそかの夜に地元特産の蜂屋柿を頂いて、大変おいしかったので歌にしたようです。このことから、みんなが健康であるようにと円空が薬師如来を一生懸命作っている姿を村人たちが見て、地元

美濃加茂の人たちの温かさを感じ
ていい仏像を残していったのでは



特産の蜂屋柿でもてなした様子が想像できます。美濃加茂の人たちの温かさを感じていい仏像を残していったのだと思います。

— あらためて円空とは？

円空は、苦しんでいる庶民のために一生懸命仏を作ったかっただのだと思います。それが、観音像などの円空仏のほほ笑みに表れています。現在は、経済優先の世の中ですが、こういう時代にこそ、円空のように無欲で、庶民に安らぎを与えるような人が必要なのではないでしょうか。思いやりの心を育てていってほしいというのが、円空の願いであつたと思います。

プロフィール

長谷川公茂さん(愛知県一宮市在住)

昭和56年から円空学会理事長。昭和30年に円空仏に出会ってから、現在まで円空の研究が続けられています。

